	F a Ears		*** ** **	e ter _t			
東	豆郡	市大	学共通	自教育	是以對	畁	抜刷

0	^	7	0	1/	П
٠,	m		x	۷o	

A Japanese Translation of the Eschatological Homilies of Wulfstan

試訳 ウルフスタンの「終末論的」説教

和田 忍 市川 誠

# 試訳 ウルフスタンの「終末論的」説教

# 外国語共通教育センター 和田 忍(東京都市大学) 市川 誠(東京理科大学)

#### 1. はじめに

本稿は後期古英語期の散文作家ウルフスタン (Wulfstan 生年不詳 -1023 年没)の「終末論的」(eschatological) 説教の日本語訳である。「終末論的」説教とは、以下で見るように、アンチ・キリスト、最後の審判など世の終わりを想起させる主題を含む作品の総称である。ウルフスタンの説教の編者である Bethurum によれば、次の5つの作品が「終末論的」説教に属する。なお、各作品の右記のページ数は、本稿が底本とする Bethurum の刊行本のページを示す。

- (1) Antichrist (アンチ・キリスト) (pp. 116-8)
- (2) Matthew on the Last Days (マタイにおける最後の日) (pp. 119-22)
- (3) Luke on the Last Day (ルカにおける最後の日) (pp.123-7)
- (4) The Deeds of Antichrist (アンチ・キリストの行い) (pp.128-33)
- (5) The Last Days (最後の日) (pp.134-41)

拙訳を提示する前に、ウルフスタンが上記の「終末論的」説教をイングランド人に向けて書いた西暦 1000 年前後の状況を概観する。歴史上、ウルフスタンが初めて登場するのは、『アングロ・サクソン年代記』F 写本 996 年の記事「この年、ウルフスタンがロンドンの司教に聖別された」(.dccccxvi. Her was Wulstan (sic) gehadod to biscope into Lundonbyri. Hic consecratus est Wlstanus (sic) ad episcop'atu'm Lundoniensem.) である (Baker 95)。ウルフスタンはロンドンの司教を 1002 年まで務め、その年から亡くなる 1023 年まで、ウスターの司教とヨークの大司教を兼務した。ウルフスタンが聖職者を務めた当時のイングランド

は、991年にイングランド軍がヴァイキング軍に敗れた戦いを歌った韻文『モルドンの戦い』(the Battle of Maldon) で知られているように、ヴァイキングによって頻繁に襲撃された時代であった。『アングロ・サクソン年代記』よれば、997年、ヴァイキング軍は、デヴォン、コーンウォール、ウェールズ、翌 998年は、ドーセット、さらに 999年にはケントを攻撃した(Plummer 131-3)。ヴァイキングによる攻撃の激しさは、ウルフスタンの説教 Sermo Lupi ad Anglos の表題にある表現 Quando Dani Maxime Persecuti Sunt eos(デーン人が彼ら(= イングランド人)を最も攻撃した時)からも伺い知ることができる(Whitelock 8)。最終的に、イングランドは、1016年、後にウルフスタンが顧問官として仕えたクヌート率いるデンマーク軍によって征服されたことは周知の通りである。

ヴァイキングによる侵攻に加え、西暦 1000 年頃に流布した「ヨハネの黙示録」20章に基づく「千年王国説」(millennialism) も、「終末論的」説教を取り巻く時代状況として重要である。千年王国説とは、神の怒りが地上世界に降り注がれ、世界の終末を迎えた後、千年王国の時代が来るという思想である(大貫他691-2)。その時代になると、悪人は滅び、主キリストや殉教者たちが復活して神の国が創造され、黄金の時代が千年続くとされる。この教説はユダヤ教における終末に基づく考えとされ、後にヨハネの黙示録 20章を通して、キリスト教にも広まった。ウルフスタンの「終末論的」説教集では、ヨハネの黙示録 20章 7節を直接引用する「最後の日」に見られるように、西暦 1000 年前後に起こったヴァイキングによる襲撃を、千年紀におけるサタンの束縛の解放とアンチ・キリストの到来に伴う迫害と見なし、正しい信仰によってアンチ・キリストを克服し、新しい世が到来することを聴衆に説く。このような時代状況で、ウルフスタンの「終末論的」説教は書き上げられた。次節以降で、各「終末論的」説教の日本語訳を提示する。なお、聖書の引用箇所の日本語訳は、共同訳聖書実行委員会『聖書新共同訳 旧約聖書続編つき』に従う。

## 2. アンチ・キリスト

(Bethurum p.116) 親愛なる人たちよ、あなたたちにとって守るべき最も必要 なもの、すなわち、正しいキリストの教えを、正しく、そして、注意深く守るべ きことを理解しなさい。なぜなら、キリストの教えに反することを行う人は誰で も、また、キリストの教えに属する人にそれに反することを教える者は、「アン チ・キリスト | と呼ばれるだろう。「アンチ・キリスト | はラテン語で Contrarius Cristo (「キリストの敵対者」)、すなわち、英語では、「キリストの敵対者」であ る。神の教えを捨て、悪魔の教えを通して、キリストの教えに属する者を奪い 去り、罪によって自らを大いに汚し、他の人を罪へと導く者は「キリストの敵対 者 | である。多くの人はその目で 「アンチ・キリスト | の姿を決して見ることは ないが、彼の手下は余りに多い。今や、福音書で読まれるように、彼らの悪事 を通して、彼らを広く認めることができる。(p.117) 「 偽預言者が現れる | ( マタ イによる福音書 24 章 24 節)。偽りの虚言者や友好的な詐欺師が現れることが広 く起こる。彼らは、多くの人を傷つけ、異端へと導く。そして、書物が言うよう に、不正を行う悪魔の子を通して、かつて決して起こることがなかった非常に大 きな苦しみが、多くの仕方でこの世で広く起こる。なぜなら、「アンチ・キリス ト」が来る時、かつてこの世で決して起こることがなかった最大の悪が人類に到 来するのである。そして、その時は非常に近いように思われる。なぜなら、この 世は、日毎、長くなればなるほど悪くなるからである。

さて、神の伝道者は、人類に到来する恐怖に対して、不注意にも捕らわれ、そして、余りに素早く悪魔によって欺かれないように、頻繁に神の民に警告しなければならない。しかし、司教は自らの司教区で、そのことを、しばし、そして、頻繁に伝えなければならない。(p.118) 教えがないため、神の民が滅びることがないように。そして、この世で生きようと生きまいと、「アンチ・キリスト」がその狂気を広く撒き散らす時に、私たちは、聖なる群れに対して注意深く抵抗するよう戒める必要がある。さて、また、私たちは、彼の偽りの教えから自らを戒め、全能の神に対し、国民の敵から私たちを守るよう祈ろう。神がその恐怖から私たちを守りますように。彼の御心を行う人たちに用意された永遠の喜びへの道を私たちに開きますように。そこには永遠の喜びがあり、それは、終わることなく、永遠にあるだろう。アーメン。

## 3. マタイにおける最後の日

(p.119) 親愛なる人たちよ。かつてエルサレムと呼ばれる町で次のことが起 こった。(p.120) 私たちの主の使徒が神を称えるために建てられた名高い寺院に ついて主と共に語り始めた(マタイによる福音書24章1-14節)。そして、主 は彼らに対して「最後の日にあらゆる石が地に投げ捨てられる」と言われた。ま た、さらに、彼らは主に対して、それがいつ起こり、どのようなしるしによって この世の終わりの到来を認めることができるのか密かに尋ねた。主は、偽りの 教えと恐ろしい虚栄で騙されることがないよう自ら戒めるべきであると、彼らに 答え、言われた。なぜなら、彼は言われた、最後の日には、欺いて嘘を付き、恐 ろしく高慢になり、自らを神と呼び、キリストのふりをする多くの人が来るから であると彼は言われた。しかし、何であれ、彼は言われた、決して彼を信じて はいけない。彼は言われた。この世が終わる前に広く大きな争いが起こる。そ して、その時に、余りに臆病になってはいけないと教えられた。そして、終わり はまだ近くはないと言われた。彼は、また民が互いに激しく争い、多くの地震 や苦しみが終わりの前に、それがこの世に起こると言われた。(p.121) それらは 人類に到来する苦しみの始まりである、と彼は言われた。それらは確かに彼が意 味したものであり、私たちは、「アンチ・キリスト」が猛威を振るい、この世を 脅かす前にこの世に起こる悲しみと苦しみをよく知っている。なぜなら、キリス ト教徒に対する迫害は、恐ろしく、そして、痛ましく、至る所で、神を愛する人 は憎まれ、嫌われているからである。そして、偽りの偽善者が現れ、大いには びこり、偽りの教えによって、余りに多くの人を惑わせる。しかし、どのような 仕方であれ、心が挫けない人は、その後、常に祝福されるだろう。そして、私は 一つ確かなことをあなたたちに言う。この世が終わる前に、この福音が世界中で 明らかになるだろう。そして、その後、神が望むように、終わりがすぐに到来す る。しかし、神自らを除き、その定められた日を知る人はこの世にいない。天上 の天使もまたそうである。それゆえ、常に、裁きに対して十分に準備し、いつそ れが私たちに来るのか、自覚し、警戒しなければならない。私たちは、確かに それが近づいていることを知っている。そして、すべての人が赴く裁きでは、私 たちの主は、自ら、血の脇腹と、貫かれた手と、私たちの必要のために彼が磔に されたその十字架を私たちにお見せになる。そして、その時、彼は、私たちは彼 に贖いを行い、どのように、私たちがキリストの教えを守ってきたかをお知りになる。親愛なる人たちよ。より注意深くなろう。(p.122) 私たちに必要なことを行おう。何よりも神を愛し、できるだけ、彼の御心を行うのである。すると、彼は、私たちに最も気に入るように、私たちにそれをお報いになる。主に称賛と栄光が、常に終わりなくありますように。アーメン。

## 4. ルカにおける最後の日

(p.123)「それから、太陽と月と星に徴が現れる | ( ルカによる福音書 21 章 25 節)。この福音が明らかするのは、私たちすべてに共通して起こる裁きが来る前 に、多くのしるしが広くこの世で、天上の星や地上の揺れで起こることである。 そして、確かに、かつて私たちの罪のために洪水が来たように(創世記1章7 節)、また罪のために、火が人類に到来し、そして、その時は非常に近い。それ ゆえ、多くの悪事やさまざまな不運が広く人類の間で広く起こり、それはすべて 罪のためである。書物によれば、かつてこの世のいたるところで起こった以上の 報いや苦しみが起こる。それは、「アンチ・キリスト」が猛威を振るい、この世 を脅かす時である。その時は今や非常に近い。それゆえ、私たち自身が十分承知 するように、この世は長くなればなるほど悪くなる。また、私たちに明らかなこ とは、私たちは余りに弱く神に従い、神の力や慈悲に余りに絶望し、(p.124) 必 要以上に彼を頻繁に激怒させ、また、聖俗問わず、私たちの間で、正しい信仰を 余りに弱く保っていることである。それゆえ、多くの不幸が、私たちを傷つけ、 私たちに苦しみを与え、キリストが福音書でそれは起こるだろうと明らかに言わ れるように、異邦人や外国人が、私たちを大いに苦しめるのである。彼は言わ れた。「民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう」(ルカによる福音書 21章10節)。すなわち、英語では「民は立ち上がり」、と彼は言われる、「敵対 し、地で人類の間で余りに広く起こる不正のために、互いに激しく戦う」。

親愛なる人たちよ。この地は始め清らかであった。しかし、私たちはその後、私たちの罪でそれを大いに汚したのだった。そして、私たちの不法は、また頻繁に私たちを非難する。なぜなら、私たちが守るべき神の法を守ろうとせず、行うべきことを神に対して行わず、与えるべき10分の1税を与えず、分け与えるべき施しを分け与えず、あらゆる点で、私たちが神の恩寵の下、実行すべきことを

損なうのである。それゆえ、また、多くの被造物が、私たちを苦しめ、次に書い てあるように、私たちに対し争いを挑むのである。「宇宙は主に味方して愚かな 者どもに戦いを挑む | (知恵の書 5 章 20 節)。(p.125) すなわち、英語では、「す べての世界が罪のために神に従おうとしない高慢な人と戦う |。天は、むごい嵐 を私たちに送り、家畜や作物を大いに傷つける時、私たちと戦う。地は、地の 収穫を妨げ、余りに多くの悪天候を私たち与える時、私たちと戦う。また、書か れているように、太陽はこの世が終わる前に暗くなり、月は陰り、人類の罪のた めに星は落ちる(マタイによる福音書24章29節)。それは「アンチ・キリスト」 が猛威をふるう時、起こるのである。また、太陽が暗くなると言われている。す なわち、太陽が暗くなるとは、神が、アンチ・キリストの時代に、彼がかつてし ばししたように、力を示そうとしないことである。月が陰るとは、すなわち、神 の聖人が、かつてしばししたように、しるしを行わないことである。星が天から 落ちるとは、偽善者や偽キリストがすぐさま正しい信仰から転落し、アンチ・キ リストに熱心に従い、全力で彼の援助者になることである。その時、かつて存在 した最大の恐怖、最大の迫害が広く世に起こる。縁者は異邦人以上に縁者を助 けることはない。その恐ろしい時代について福音書作者マタイは確かに次のよう に言った。(p.126)「そのときには、世界の初めから今までなく、今後も決して ないほどの大きな苦難が来るからである」(マタイによる福音書24章21節)。 すなわち、英語では「かつてなく、今後もないような惨事や苦しみがあるだろ う」。その後すぐに、神聖な力によって、すべての天の力が動き、地の住人は死 から復活し、裁きへと向かうのである。それから、かつて真実を信じようとしな かった人は、キリストは、彼の威厳で、あらゆる人に過去の行為に対して報いを 行うことを知るのである。かつて地獄の苦しみに値した人たちに災いあれ。そこ では、永遠の炎が激しく混ざり合い、永遠の罠がある。呻き、嘆き、そして永遠 の咽びがある。あらゆる苦しみ、悪魔の一団がある。罪に留まる人たちに災いあ れ。彼は生まれてくるべきでなかった。なぜなら、この世には、経験するすべて の災いを語り、それを悔いる人がいる。それゆえ、この世に終わりが来ないこと はよりひどいことである。

ああ、親愛なる人たちよ。私たちがすべきように行おう。その恐怖から私たち自らを守ろう。それが可能で許される間は、予期せぬ時に滅びることがないよう、私たち自らを助けよう。しかし、何よりも神を愛し、(p.127) できる限り、

神の御心を行おう。神は、私たちが最も必要とする時に、私たちに最も好ましいように報いを与える。神に称賛と栄光が常に終わりなくありますように。アーメン。

## 5. アンチ・キリストの行い

(p.128) 親愛なる人たちよ。迫り来る恐ろしい時代について、私たちは注意す る必要が大いにある。私たちが考え得る限り、そして、私たちが良く知る限り、 今やアンチ・キリストの時代は非常に近い。それは、この世が最初に創造されて 以来最も恐るべきものである。アンチ・キリスト自身は、悪魔であるが、人とし て生まれた。キリストは、真の神であり真の人である。アンチ・キリストは、確 かに悪魔であり人である。キリストによって、助けと慰めが全世界に来た。アン チ・キリストによって、この世でかつて起こった最大の恐怖と最大の苦しみが来 る。もし神が日を短くしなかったならば、全人類はすぐに滅びただろう。しか し、神は彼によって選ばれ、彼が守ろうとすることのために自らの日を短くし た。しかし、アンチ・キリストがいる間、彼はかつてないほどの余りに大きな 悪を行う。あらゆる人を、彼は (p.129) 正しい信仰、そして、キリストの教えか ら背けさせ、できるならば、自らの偽りの教えに導くのである。神は、しばらく の間、2つの理由からアンチ・キリストにそれをすることを許す。一つ目は、ま ず、罪によって人は破滅し、その結果、悪魔に従う者は誰であれ、公然と試み を受けるに値するものとなるからである。二つ目は、神は、祝福された人が正 しい信仰に留まり、決然と悪魔に抵抗することを望む、また、迫害と殉教によっ て、罪から清められることを望むからである。それゆえ、罪がないという人は全 く存在せず、あらゆる人は、この世または他の場所で、罪に応じて苦しみを受け なければならない。それゆえ、迫害は、善良な人にとって余りにも厳しいものに なる。なぜなら、彼らは、大きな裁きが来る前に、すばやく清められなければな らないからである。数百年またはそれ以上前に死んだ人は、今や罪から清めら れる。もし、裁きが来て、私たちが清められた状態ならば、私たちはさらに厳し い裁きを受けなければならない。今や、私たちの前に存在した人たちが持って いた時代は過ぎ去った。すべての人は、望む限り、熟考せよ。(p.130) 金が最も 清らかになるように、あらゆる罪から清められない限り、私たちの誰も神の国に

至ることはない。

親愛なる人たちよ。神は、アンチ・キリストに善良な人を迫害することを許す。なぜなら、私が前に述べたように、彼らは迫害によって清められ、その後、清らかに天国に向かうのである。アンチ・キリストの虚偽を信じ、従う人たちを、神はこの世で守り、この世で称えるのである。しかし、彼らは、その後すぐに、永遠に破滅し、アンチ・キリストと共に暗黒の地獄の底に常に留まるのである。目に見える悪魔は多くのわざを行い、彼自ら神であると言い、幻想であらゆる人を最大限に欺く。他の仕方で欺くことができない人に対しては、できるなら、アンチ・キリストは、無理やり彼らに神を否定させ、彼に従わせるのである。もし彼らがそれを拒めば、彼らは大きな迫害、また、惨めな死を (p.131) 受けるだろう。ああ、決然とし、それゆえ、心が挫くことがない人は幸いである。しかし、確かに、陰険なわざ、また、人類に仕掛けた罠でアンチ・キリストに欺かれない人は余りに少ない。

私たちの主であるキリストは、この世で多くの病人を治した。悪魔であるアンチ・キリストは、かつて健やかだった人たちを傷つけ、病気にした。そして、彼が傷つけない限り、彼は誰も癒すことはできない。しかし、彼が人を傷つけた後、もし、彼がかつてその人に対して行った悪を止めれば、彼はあたかも彼を癒すかのように振る舞うことができる。彼は全く欺きで満ちている。彼は欺きによって非常に多くの人を欺き、密かに多くの人を傷つけ、人の面前で癒し、彼らは彼が何をするのかを見る一方で、彼が以前に何を行ったかは知らない。あらゆる悪事を彼は行うことができる。あらゆる悪事を彼は行う。彼は、あたかも天から来るかのように、上から火を呼び寄せる。それによって、かつてヨブの財産に行ったように、彼は多くの人を焼き払う。しかし、その火を恐れるために彼に従う人は、常に地獄で永遠の炎に(p.132)留まるのである。悪魔によってこの世に起こるその恐怖について私は誰にも語ることができない。私たちは全能の神に対して、その恐怖から私たちを守り、御心によって私たちを強くするよう熱心に祈る必要がある。

地獄にいるその悪魔は、すなわち、哀れな人、アンチ・キリストとなる人であり、確かに、悪魔であり人である。彼はかつて起こった以上に、全人類を公然と苦しめ、欺くのである。私たちはそのような恐怖に注意する必要が大いにある。また、恐怖が到来することを知らない人を戒めなければならない。なぜな

ら、無教養な人が信じるようとする以上に、その時は近いのである。それゆえ、この世が日毎に悪くなっていることは明らかである。また、私は確かに言う。悪魔は、もしできるなら、あらゆる人の考えを妨げ、その結果、伝えられても理解せず、それに対して警戒せず、それゆえ、かつて必要としたように十分に警戒しなくなり、人類の中で最も欺かれた存在となるのである。ああ、全能の神が癒しながらも、(p.133)悪魔に欺かれないように事前に警戒しない世の人とは何なのか?しかし、私たちは熱心に警戒し、彼の御心により、守られるに値する存在になろう。私たちの主に対して、決然とした信仰と、絶え間ない想いを抱こう。私たちは惨めさを経験し、この世で、苦しみに耐えなければならないが、たとえ、私たちが挫かれることがなくても、私たちは、正しい信仰に留まり、あらゆる異教を蔑むのである。神が永遠の休息を私たちに用意しますように。神の名において私は祈る。あらゆるキリスト教徒が熟慮し、熱心に神へと向かい、異教と罪から離れ、天国でいつも終わりなく生き、支配する人と交わりを持つことができるように。アーメン。

## 6. 最後の日

(p.134) イエスが弟子から世の終わりについて尋ねられた時、彼らに言われた。「憎むべき破壊者が立つのを見たら」(マルコによる福音書 13 章 14 節)。「それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ」(同 13 章 17 節)。「それらの日には、神が天地を作られた創造のはじめから今までなく、今後も決してないほどの苦難が来るからである」(同 13 章 19 節)。

親愛なる人たちよ。私たちの主の使徒は、この世の終わりについて彼に尋ねた。彼らにかつてなく今後もないような苦しみが終わりの前に起こると彼は言われた。そして福音書は言う。「子を産み、苦しい時に子供を育てる女に災いあれ」。ああ、この世はまた、民の罪のためにひどく悪化している。なぜなら、今は使徒パウロがかつて預言した時だからである。彼はかつて司教テモテに(p.135)言った。この世の最後の時は、人類の罪のために危険な時になる。そして、人はこの偽りの世を余りに愛し、世俗の財産に余りに貪欲となり、あまりに多くの人が高慢になり、虚栄を誇るのである。畏れを抱くべき神聖を軽蔑し、教養を批判し、不正を愛する。欺瞞、狡猾になり、信仰を持たず、罪で断

罪される。できる人は知りなさい。今やこの世が多くの悪と多くの欺瞞で混ざり合う時である。そして福音書が言うように、広くこの世はさらに悪くなっている。「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう」(マタイによる福音書 24 章 12 節)。すなわち、英語では「不正があまりに広く起こり、真の愛が (p.136) 冷える」。誰も当然すべきように神を愛さない。人の信仰は価値を持たない。不正が広くはびこる。不確かな信仰が人の間にある。それは多くの点で明らかである。できる人は知りなさい。

ああ、ああ、しかし、キリストが人の誕生を通してこの世に来た時、大きな喜びと最良の癒しが到来した。それは私たちすべてにとって最大の助けと最良の慰めとして来た。今や到来する堕落は大きい。アンチ・キリストが生まれる災いを経験するがよい。キリストは、これまで生まれた子どものなかで最良であった。アンチ・キリストは、これまでそして今後この世に生まれる子どものなかで最悪であろう。今や状況はひどく悪化する。なぜなら、聖書に書かれ、かつて預言されたように、彼の時代は非常に近い。「千年後にサタンは解放されるだろう」(ヨハネの黙示録20章7節)。すなわち、英語では「千年後にサタンは解き放たれるだろう」。キリストが人の姿で人類に現れて今や1000年とそれ以上経過した。(p.137) サタンの束縛が大いに解き放たれ、アンチ・キリストの時は非常に近い。それゆえ、この世では、長くなればなるほど、衰えるのである。人は欺瞞である。世はそれゆえ悪くなる。それは私たちすべてを傷つける。確かに、今後は、正しき人、貧しい人、罪のない人にとって状況は重くなるだろう。今や、欺く人、偽る人が到来する最大の悪に対して広くはびこっている。それは民の敵であるアンチ・キリスト自身である。

ああ、キリスト教徒がかつてこの世で、しばしそして頻繁に、残虐な反逆者によって広範に受けた迫害は大きい。確かに、今後、迫害は、多くの点で起こるだろう。今や、悪魔自らが力を支配することを許され、悪魔の子は、キリスト教徒を過度に脅かすことを許されている。かつて、しばしこの後に起こるものとは決して同じでない多くの迫害があった。なぜなら、かつては、彼らが迫害を受けている間、神の聖人は神の力を通して公然と多くの奇跡を行い、それゆえ、(p.138)多くの人に救いを与えた。しかし、アンチ・キリストの時代はそうではない。その時代、聖人はどんな奇跡も公然と行うことはできず、彼らは与えられるすべてを耐えざるを得ない。神は、しばらくの間、かつて彼がしばししたよう

に、力や奇跡を示そうとはせず、しばらくの間、アンチ・キリストと彼の手下に 猛威をふるわせる。彼は人として生まれるが、全く悪魔の霊に満ちている。目 に見える敵は、悪魔のわざを通してしるしを、魔術を通して多くの幻惑を行う。 年間の4分の1の期間、彼は人類を支配し、かつてあらゆる点で欺かれたほと んどの人を欺く。さもなければ魔術で誘惑することができない人を、彼は悩ま せ、激しく支配し、多くの点で、惨めに苦しめ、強引に偽りの教えに向かわせ るのである。彼は悪魔のように激しく嘘をつき、キリストを否定し、彼自身キリ ストの子であると言い、(p.139) 余りに多くの人を異端へと導く。神は人の行為 に応じて、しばらくの間、激しく傷つけることを許す。なぜなら、人は罪のため に大いに断罪され、悪魔は、公然と、どれだけの人を永遠の破滅へと導けるかと 彼らに試みを与える。すると、熱心に専心して神の法を守り、決然と正しい信仰 に留まる故に大いに祝福される人は、あらゆる人がこの世で受けた中で最大の、 そして、かつてあらゆるところで起こった、そして、今後起こる以上の迫害を受 けるのである。しかし、心が挫くことがない人は幸いである。なぜなら、その後 すぐに、確かに、神の力によって永遠の慰めが彼に到来するからである。ああ、 人である悪魔が罪人を激しく傷つけるとは何という奇跡だろう。神が悪魔に対 して聖者の間でそのような奇跡を起こすことを許した。神が数百年の間、魂と (p.140) 肉体を保持したエノクとエリヤが民衆の敵によって殉教する時、彼らは 自らの教えで民を救い、すべての人を脅かし、すべての世界を苦しめる悪魔に よって民は滅びることはなかったのである。

この世には、悪魔の時代に起こるように悪を語ることができる人はいない。 兄弟は別の兄弟を、時には、父は子を、子は父を、親類は親類を、ましてや異邦 人を助けることはない。民はこのことが起こる前に互いに争いを起こす。また、 広く、争い、傷害、中傷、敵意、強盗、破壊、飢饉、放火、流血、ひどい諍い、 争い、疫病、多くの不幸が起こる。多くのしるしが、広く、太陽、月、さまざ まな星で見られる。多くの種類の恐怖が、民の心の恐怖として、(p.141) 多くの 点で惨禍としてこの地で起こる。もし神が力を通してすぐさま敵の日々を短くし なかったなら、すべては滅んでしまっただろう。しかし、彼によって選ばれ、保 持し、援助しただろう庇護のために、彼は敵を破滅させ、そこから、かつて彼に 従い、彼の偽りの教えを大いに信じた仲間と共に、地獄の底に送り込む。神の 裁きは正しく区別される。確かに、神を愛し、神の法に従い、神の教えに耳を 傾け、それをよく守り、決然と最後まで正しい信仰に留まる人は、天の喜びの中で、裁きの後は神自らと共に、さらに彼の聖者と共に、永遠の報いを持つだろう。そこには永遠の喜びがある。終わることなく、常にいつもあるだろう。アーメン。(終)

## 参考文献

Baker, Peter S. The Anglo-Saxon Chronicle: A Collaborative Edition. MS F: a Semi-Diplomatic Edition with Introduction and Indices. Cambridge: D.S. Brewer, 2000. Print.

Bethurum, Dorothy. the Homilies of Wulfstan. Oxford: Clarendon Press, 1957. Print.

共同訳聖書実行委員会『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』東京 : 日本聖書協会 , 1995. Print.

大貫隆 他編『岩波キリスト教辞典』東京:岩波書店,2002. Print.

Plummer, Charles. Two of the Saxon Chronicles Parallel with Supplementary Extracts from the Others: A Revised Text. Edited, with Introduction, Notes, Appendices, and Glossary. Oxford: Clarendon Press, 1972. Print. Whitelock, Dorothy. Sermo Lupi ad Anglos. Methuen & Co Ltd, 1967. Print.